

1. 北海道（地域別調査機関：（株）北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	商店街（代表者）	・冬物のバーゲン時期ということもあり、正価で販売する商品に動きがない分、ほかのところで動きが出てくると思われる。また、来春、新しい店のオープンで客の動きも出てくると期待する。
	変わらない	商店街（代表者）	・消費マインドを高める要因がない。
		百貨店（売場主任）	・身の回りでは、去年のセール品といった目玉商品に客の目が集中しており、今後も通常価格品が売れるとは考えられない。
		コンビニ（エリア担当）	・商品の単価は低価格指向が強まっているが、客数は増えているので変わらない。
		コンビニ（店長）	・10月は偶発的なまとめ買いが多くあったが、これは、将来的に約束されたものではないので、今後への期待はできない。近隣に大型激安店が出店し、自店で主力としているジュースやカップラーメン等が、安価で売られており、今後は厳しくなると考えられる。
		衣料品専門店（店長）	・客との会話のなかで、医療費や年金の心配をする人が多く、そう簡単には良くならないと思う。
		家電量販店（店員）	・家電商品では最近、台所回りの商品がよく動いており、A/V商品の動きが例年並みとなっている。今後は、ハイビジョンTV、プラズマTVなどで前年より販売台数が伸びると思うが、買い替え商品の単価が前年よりも低下しており全体としては変わらない。
		住関連専門店（営業担当）	・集客策としてチラシなどの販促媒体を強化しているが効果が現れない。
		高級レストラン（スタッフ）	・オフ期に入るこの時期は、低単価販売に拍車がかかると予想され、現状の悪い状態が続くと思われる。
		観光型ホテル（スタッフ）	・観楓会などの団体入込客の増加を見込んでいるが、冬場の落ち込みも見込まれ、横ばいと思われる。
		タクシー運転手	・タクシー利用客の話を聞いていても、景気が少しでも良くなるような話はなく、これから冬に向かう北海道では観光シーズンも終わり、また、イベントの開催もなく、景気が良くなる要素がない。
		タクシー運転手	・タクシー業界では冬期間にかけて需要期に入るが、楽観はできない。
		タクシー運転手	・当市で新規参入のタクシー業者が走るのではと言われており、いまず景気の回復があるとは思えない。
		美容室（経営者）	・12月は他の月よりは売上があがると思われるが、例年を上回ることは期待できない。
	やや悪くなる	百貨店（売場主任）	・高額品の売上が良くなく、また、単価が下がっている状況が見受けられる。
		スーパー（店長）	・株安、失業率悪化など、消費者心理に明るさを与える要素が少なく、収入が若干増加しても消費には直結しないと思われる。また、政府の構造改革政策も実態が見えず、将来不安が消費の阻害要因となっている。
		スーパー（企画担当）	・雇用や所得に対する将来の不安や、株安などの金融システムの動揺など、客の購買行動にとってマイナスになる材料ばかりが目立つ。
		コンビニ（エリア担当）	・年末のボーナスが減少すると思われ、客単価の低下が顕著に進む。
		衣料品専門店（店員）	・現時点のボーナス払いの客が少なく、ボーナスを期待していない人が多いと思われる。このため、ボーナス時期の買い控えが予想される。
乗用車販売店（従業員）		・各家庭で減給されるケースが多く、ボーナス商戦は厳しくなることが予想される。	
その他専門店〔医薬品〕（経営者）		・休日は家から出ないような家庭が増えているようであり、ますます必需品のみ購入するパターンになる。	
一般レストラン（スタッフ）		・外食では、勝ち組と負け組の差がますます大きくなっており、全体的に客の来店頻度が少なくなると予想される。	
観光型ホテル（経営者）	・単価の下落に歯止めがかかる状況が見えないことに加え、企業での行事の減少、家族旅行の出控えといったマイナス要因が強まることが感じられ、入込客の減少が明確に現れると見込まれる。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		観光型ホテル（経営者）	・冬場の入込は農閑期の農業関係者が多いので、米の作柄が、道内一円、例年より悪くなっている今年は、農業関係者のマーケットが縮小し、やや悪くなる。
		旅行代理店（従業員）	・収入が減るなか、貯金を取り崩してでも旅行に行く客が少ない。
		旅行代理店（従業員）	・アジアの政情不安も多少影響があり、海外旅行への需要は勢いが無い。また、国内需要も勢いが感じられない。
		通信会社（企画担当）	・ますます経費を削るといって声が大きくなっており、その影響で真っ先に削られるのは、通信料だと思ふ。
	悪くなる	コンビニ（エリア担当）	・温泉街など行楽地が閑散としているほか、農業・漁業といった一次産業の収入も厳しい状況があり、年末以降、酒類など高い買物は減ってくる。
		スナック（経営者）	・人が飲食店に出てくることのないこともあり、来店数が少なく、4年連続で対前年比が落ち込んでいる。今後の見通しについてはまるで当てがいない。
住宅販売会社（従業員）		・将来に対する不安が取り除かれず、住宅・不動産関連といった大きな金額の買物のローンが組めないため、先行きは厳しい。	
企業 動向 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	-	-
	変わらない	食料品製造業（団体役員）	・今後、年末年始の需要期に向けて受注量の増加が期待できるものの、消費者の購買動向に改善はみられず、前年を上回る販売量の見通しはないため、景況感是不変。
		通信業（営業担当）	・問い合わせや案件自体の新規数は増加傾向ではあるが、先月と比較して顧客の計画の延期等で、景気の先行きを見極めるような動きが感じられるため、全体的には変わらない。
		その他サービス業〔建設機械リース〕（支店長）	・依然としてマインドが冷えており、明るい材料がない。
		その他企業〔コンベンション担当〕（従業員）	・1月、2月の受注量は前年同期と同じなので、やや出遅れている感はあるが、横ばいになるのではと予想している。
	やや悪くなる	建設業（経営者）	・新規の受注がほとんど見込めず、手持ち工事も完了して行く。また、工事が落ち込んでおり、単価も下がっているため、景況感是不変。
		金融業（企画担当）	・不良債権処理の加速方針の明示が見込まれ、経営者の心理も萎縮する。
		その他サービス業〔システムハウス〕（経営者）	・現時点で企画開発段階の作業が激減していることを考えると、この先、プログラム作成要員に仕事が円滑に出てくるとはとて思えない。また、例年は、年度末にかけて出てくる仕事も、補正予算がそれほど付きそうにないことからかなり厳しくなることが予想される。
		その他非製造業〔機械卸売〕（従業員）	・見積案件が少なくなっており、その少ない案件に何社もが競合し適正価格が維持できていない。粗利益が15%を割るようでは営業利益段階で赤字になるが、現状では10~12%の粗利確保が精一杯といった状況である。
雇用 関連	悪くなる	-	-
	良くなる	-	-
	やや良くなる	求人情報誌製作会社（編集者）	・小売業やサービス業の好調に加え、貨物運輸が1年数が月振りに対前年比を大幅に上回り、ここ数か月は求人の増加が続くと思われる。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・各種の求人業種動向が良く、全体的にプラス傾向にある。また、同時にスナック・飲食系の業種が好調に推移しており、このまま年末年始商戦に突入していければ、やや良くなっていくものと思われる。
		職業安定所（職員）	・有効求人倍率が改善基調にある。
	変わらない	求人情報誌製作会社（編集者）	・求人数は前年度に対してプラスに転じ始めているが、この傾向が更に上向きになるかどうかは不明である。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・第2次加工も含め、基幹産業である農業関連へ雇用がシフトしており、地域全体としてもパート・アルバイトの有効求人倍率が高く推移しているが、全体としては変わらない。
		職業安定所（職員）	・9月の求人倍率は、前月より0.04ポイント回復したとはいえ、依然として就職は困難な状況が続いている。
	やや悪くなる	-	-

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	悪くなる	人材派遣会社（社員）	・冬という季節要因と企業活動の停滞により、雇用活動が停滞している。また、現状の景気状況では、働く側は冬のボーナスも期待できず、消費が低迷するとともに、企業サイドからは支払い原資確保が困難になり、経費削減圧力が進むことで、不景気感を一層強める。
		職業安定所（職員）	・建設業、サービス業を中心に解雇が続いており、今後も雇用の需要は見込まれないため。